

## 自主教材で取り組む創造的な実践

この間、社会科部会では、実践報告を中心にフィールドワークにも取り組んできました。実践報告は、いずれも教科書や資料集だけに頼らず、独自で収集した子どもにあった資料や自主制作したプリントを使った実践でした。

板橋第三中学校滝口正樹さんは、前回行なわれた「原発問題の学習をどうすすめるか」で利用したビデオなどの資料について報告しました。その後、参加者で実際に視聴したり、原発問題の資料について交流したりしました。

次は、「小学校社会科でつきたい力」と題して、世田谷の細井忠邦さんが報告しました。はじめに、小学校六年歴史の教科書がどのように変わったか、K社の1996年と2011年教科書を比較検

討し、民衆の視点が大幅に後退していることを明らかにしました。そして、小学校社会の歴史でつきたい力は、日本国憲法につながる民衆（人民）の権利獲得の過程をおさえることと話されました。さらに自主制作した歴史学習プリントを使った六年生の歴史学習について具体的に紹介されましたが、子どもの興味や関心を引き出しながら楽しく学習を進めた実践報告でした。

3回目は、板橋中根橋小学校の高野毅さんの5年生の実践「日本の食料生産と私たちのくらし」～日本の食料生産の危機的な状況について子どもたちにその現状をとらえさせたいと考えた実践です。

ねらいとして、ア、日本の食料生産が国内だけでなく国際的にみてどんな問題があるか。イ、食糧自給率が低いことか

ら生じる問題について、食糧安保の側面から考えさせるといふものでした。そのため、アフリカの飢餓難民の写真をみて感じたことや考えたことを話し合ったこと、また、プリントで世界の飢餓人口や日本の食糧自給率、これからの農水産業の見通しなどを予想させ、結果について討論させたことが報告されました。

この学習を通し子どもたちから「世界が飢えた人を支え、助けなければならぬ」「同じ世界に生まれたのにこんなに違うなんて不公平」「食糧不足になつてしまつたら戦争になり、たくさんの人が死んでしまう」「輸入量を少しずつ減らしたい」などの声が出されたそうです。

今、歴史や地理、公民など社会科に科せられた課題は多々あります。こうした課題に応えられる社会科部会をめざして、研究や実践をすすめようとしていきます。また、今年11月2日平和教育部会と合同で、早稲田のWAM（女達の戦争と平和資料館）や大久保の高麗博物館等を回るフィールドワークを予定しています。

（東久留米・久留米中）